

設に従事することになります。インフラ整備が進んでおらず、地場産業も育っていない厳冬のサハリンで、これだけの建設工事を展開するには、直接的な資源開発技術だけでなく、様々なKnow-How, Expertiseをもった企業が必要となります。実際に、世界各地から、多種多様な企業集団がサハリンに乗り込んできています。残念乍ら、乗り込む日本の企業数は少ないです。

(会報担当者：吉村 眞治 委員)

有限
会社 **フタバヤ**

~~~~~〈本店ビル案内〉~~~~~

1 F ファミリーレストランフタバヤ

2 F 宴会・会合・パーティーホール

3 F

4 F (無料カラオケ設備完備)

函館市美原1丁目7-1 長崎屋函館店内  
 ○バーラーフタバヤ2F TEL(0138)45-1978  
 ○ファミリーレストランアリスB1F TEL(0138)43-6346  
 上磯郡上磯町七重浜4-356-439 ダイエー上磯店内  
 ○ソフトクリームフタバヤ TEL(0138)49-8224  
 ○中華ジャンジャン TEL(0138)48-2400  
 ○カフェタウン

**関連会社** 居酒屋 マリントーブル  
 函館市巾道2丁目82 TEL(0138)35 3300

(広告掲載：金子 謹也 会員)

◎ 3月27日出席報告

|        |        |          |     |
|--------|--------|----------|-----|
| 会 員    | 50名    | 出席率対象会員  | 48名 |
|        |        | 出席規定免除会員 | 2名  |
| 当日出席   | 24名    | 当日欠席     | 24名 |
| 他クラブ出席 | 12名    | 出席合計     | 36名 |
| 出席率    | 75.00% |          |     |

・ テレフォンサービス(例会移動案内)電話 23 - 2377 番

次回・4月24日  
**プログラム**

**「函館校の国際交流、  
過去・現在・そして未来」**

北海道教育大学教授 上山 恭男 氏



The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

# 函館北ロータリークラブ会報

2001~2002年度 国際ロータリーテーマ  
国際ロータリー会長 リチャード D. キング

## 人類が私たちの仕事 MANKIND IS OUR BUSINESS

藪下 義晴 会長テーマ 『楽しみと親しみのある出会い・そして感動』



4月10日卓話 服部 利昌 氏

### 《第1868回例会》 第38号 4月17日(水)

#### 本日のプログラム

会員卓話 「今、小・中学校が危ない!!」  
柴崎 晃 会員

★会長 藪下 義晴 ★幹事 藤野 明信

例会場:函館国際ホテル 〒040-0064 函館市大手町5-10 TEL23-5151  
例会日:毎週水曜日 12:30~13:30 事務局:函館市大手町5-10 二子ビル4F TEL23-3870

2001～2002 〈第1867回例会〉第37号

4月10日の記録

◎司 会 薮下 義晴 会長 ◎斉 唱 手に手つないで

◎ビジター 函館R. C. 吉川孝信君、函館東R. C. 明本修一君、  
函館五稜郭R. C. 川畑武裕君

◎会長報告 薮下 義晴 会長

- 台北市東北R. C. より20周年のお礼と3月31日の地震では会員は無事でしたとのお知らせがありました。
- 向井隆司会員(日産火災海上保険)より3月末で退会の届出がありました。

◎幹事報告 増田 定雄 副幹事

- 他クラブ例会変更；4月12日函館五稜郭R. C. 15日函館亀田R. C. は共に夜間例会に変更です。
- 地区青少年交換委員会より台湾への派遣について依頼がありました。希望者がいれば藤野幹事まで連絡をして下さい。
- 例会終了後、理事会を開催します。

◎親睦活動委員会 川村 宏人 委員

## ニコニコBOX投入報告

- 久保 会員……しばらくでした。
- 野田 会員……BOXに協力。
- 小笠原会員…… ”
- 二葉 会員……服部さんをお迎えして。
- 大和 会員……BOXに協力。
- 今井 会員……4月誕生祝ありがとうございました。

- 増田 会員……BOXに協力
- 石橋 会員……函館どっくの進水式を見て来ました。
- 阿部 会員……ごぶさたしました。
- 金子 会員……BOXに協力。
- 竹谷 会員……娘が大学に入学しました。
- 小池 会員……BOXに協力。
- 北村 会員…… ”
- 高橋(徹)会員…… ”

◎卓話 「サハリンの石油・ガス開発プロジェクトの現状について」

三井物産株式会社函館出張所 所長 服部 利昌 氏

サハリンは、石油と天然ガスの宝庫であり、その開発計画はS-IからS-VIまで6つのプロジェクトがあります。開発に着手しているのがS-IIであり、最近開発準備が本格化したのがS-Iであります。両プロジェクト共日本の資本が入っています。クリーンエネルギーの旗頭である、天然ガスを日本を初めとする極東各国、各地域に供給しようとするものです。

S-IIは、天然ガスを液化し、LNGの形で船で出荷する計画。S-Iは天然ガスをそのまま消費地までパイプで輸送する構想です。

S-II(株主：SHELL、三井物産、三菱商事)は、原油の生産・販売を始めており年間15百万バレルのレベル。ピーク時はその4倍になります。一方天然ガスの商業生産は2006年末の開始で、年間約10百万トンのLNGを、38年間継続する計画。出資総額は100億ドルの見込みです。

ロシア政府との特別契約に規程された様々な権利・義務に基づき、本プロジェクトは展開されています。自国の天然資源を、外国に供給する側であるロシアとして、当然の事として、採掘・生産に関するroyaltyの他に、開発段階に於けるロシア企業の優先的起用を求めており、それに答える形でプロジェクトは進展して行く事になります。

開発段階に置いては、大型プラント3基の建設。陸上及び海底パイプラインの敷設、輸出ターミナルの建設が中心となります。ピーク時は15,000人がこの建